

■事務局より、資料1～5に基づき説明を行い、その内容について質疑を行った。

[配布資料]

- 資料1 検討の進め方
- 資料2 H30 宮崎市都市計画道路網再編検討対象路線図
- 資料3 都市計画道路の見直しの方法
- 資料4 評価項目一覧
- 資料5 定性的評価の考え方
- 参考資料（定性的評価、総合評価、交通量推計）

[説明概要]

◆**検討の進め方**

資料1により検討の進め方について説明した。

◆**H30 宮崎市都市計画道路網再編検討対象路線図**

資料2により対象路線について改めて説明した。

◆**都市計画道路の見直しの方法**

資料3により評価項目及び評価の流れについて説明した。

◆**評価項目一覧**

資料4により定量的評価の評価項目について説明した。

◆**定性的評価の考え方**

資料5により定性的評価の考え方について説明した。

◆**定性的評価について**

参考資料により定性的評価の結果、及び交通量推計について紹介

◆**質疑応答**

[委員]

廃止（要検討）となっている路線は津波の影響は無いのか。

[事務局]

津波浸水区域に掛かっている路線が廃止（要検討）となっている場合は、定性的評価による「見直しの方向性」の修正を行っている。

[委員]

パブリックコメントなどの時期は決まっているか。

[事務局]

パブリックコメントは6月上旬～7月上旬の1ヶ月間で行う予定であるが、パブリックコメントの前に、地域協議会などに説明を行う予定である。

[委員]

廃止（要検討）の区間について、地元から整備の要望があっている路線はないか。

[事務局]

廃止（要検討）の路線自体に要望は無いが、付近の路線に要望があり、そちらを整備することで代替路線となるような箇所は存在する。

[委員]

定性的評価で廃止（要検討）から存続（要検討）になった区間について、津波災害時の避難路としての役割に注目したものは、今後、避難タワーや避難ビルなどと有機的な連携が必要だと思う。

整備された道路を使って避難したら、実は近くの避難タワーに走って逃げた方が早かったなどとなっては意味がない。

[事務局]

避難路として利用される可能性が高い路線については、避難ビルや避難タワーの位置などを確認しながら検討していきたい。

[委員]

区画整理構想区域内にあることで存続（要検討）となっている路線は、区画整理が始まらなければ存続（要検討）のまま残っていくのか。

[委員]

人口減少も進み、区画整理事業は難しくなっている状況であるが、区画整理が完全に無くなっていない地区の場合、都市計画道路を廃止することで建築制限がなくなるため、移転困難な建物が建つなど区画整理がますます難しくなる。

今後も都市計画道路の見直しは行われるので、今回の見直しまでは存続（要検討）とし、次回の見直しまでには区画整理の動向も決まってくると思うので、それを踏まえた見直しを行うことになると思う。

[事務局]

見直し対象路線が全て都市計画どおりに整備された場合の交通量の推計と廃止（要検討）の路線が整備されなかった場合の交通量の推計を行っているが、周囲の路線には概ね影響が無い結果となっている。

[会長]

津波災害の避難路として活用されるような路線は早期整備が望ましいと思うが、基本方針が決まった後、存続となった路線はいつ頃整備を行う事になるのか。

[事務局]

存続候補、存続（要検討）となった路線については、事業費の確保も必要となるので、優先順位を検討しながら進めていきたい。

廃止（要検討）となった路線については、今後、詳細な調査や地元の意見も踏まえながら廃止も含めた検討を行いたい。

○閉会